



リードのホルン部分に当たるところに3個のリングがあり、どのメーカーのオーボエにもフィットするように交換可能。

にならない。結局、2枚の両端サイドを接合するという方法でこの問題を解決しました。この技術は今までに無かったものです。

ハルトマン この貼り合わせの方法が見つかるまでは、リードを形にするための技術的な問題の話合いが続いたわけです。私は30年以上の演奏経験からものを言うのに対し、ギイはリードを的確に測定し、それを形にする方法を考へる。リー

ドのどこをどう削ればどうなるのかという私の原理的な説明をもとに、彼はそれをどう形に出来るかを考へる。その中から最善の愛護策を見つけなければいけない。

しかし、ひとたび貼り合わせの技術が完成してからは、問題はもう通常のケーシングのリードと変わらなかった。今は、さらにどうやって現在のリードよりもより良いリードが作れるかという、オーボエ

奏者なら誰もが目指すことを行っています。これこそ私にとって最も協力しがいがあり、興味のある仕事です。

レジェール ここまで来ると、ケーシングのスクレイビングの技術がかなりの部分で占められてはいます。

くするにはどうしたらいいかとか、高音を出しやすくするだとか、音の大きさや柔らかさの問題、音程の問題などに対処できるようにする必要があります。

——ケーシングのリードでは、チューブという真鍮の素材も音に影響すると考えられているわけですが。

レジェール 我々もさまざまなチューブを研究しました。しかし、素材（真鍮）はそれほど重要ではないんです。ポイントとなるのは中の形状と長さなど。また、ほとんどの金属のチューブは真鍮になっていないか、微妙に歪んでいたりします。レジェール・リードは真円で歪みありません。

——リードの弾性（硬さ）の違いはシンセティック素材ではどのようにして出ますか？

レジェール レジェールのリードはケー



オーボエのレジェールリードは、この夏、東京で行われた国際ダブルリードフェスティバルが世界初の展示販売となった。

2枚のサイドを接合することで
長年の技術的問題がクリアできた。

ンの繊維のように、縦方向に強く、横方向に柔らかい素材で作られます。こうした性質は、簡単に言うと、シンセティック素材の材料を引っ張ることで生まれます。強く引っ張れば引っ張るほど弾性率の高い（硬い）素材になるのです。

——面白いですね！ カットのデザインは、ハルトマンさんが使っているのと同じものですか？

ハルトマン 全く同じというわけではなく、とても一般的なデザインになっています。ヨーロッパや日本のオーボエ